

方から人力車を数台つらねてくる一行に
出会いました。なにげなく一行をながめ
ていた五郎は、車上の一人を見てわれと
わが目をうたがいました。なんと、それ
は青森で別れてきた野田豁道のだひろみちではありま
せんか。五郎はおどろきで言葉も出ず、
じつと見つめたままでした。野田も五郎
に気づき、近づいてきて車を止めさせま
した。五郎は帽子をぬいでふかぶかとお
じぎをしました。

「柴ではないか、どうしたのだ。こん
なところで何をしている。」

